



2023年6月15日	AEFA理事会 AEFA創立19周年を迎える	(金子)	
7月16日	第14回AEFAフォーラム開催	9月29日	ベトナム クアントゥン小学校レインボーライブラリー読書啓蒙活動クロージングセレモニーをオンラインで開催
8月26日	エルセラーン社フェスティバルにて、ラオス ナボーン中学校図書館、ピエンカム小中学校図書館開館式が開催(亀井)	10月4日	スリランカのパートナー ダヤシリさん来所
8月29日～9月7日	スリランカ出張(谷川) 既存建設校訪問、竣工確認、候補校訪問他	10月14日	エルセラーン社平和の集い参加(金子)
		10月21日	八王子市小宮小学校地区道徳公開講座(佐川、金子)
9月25日	不二女子高等学校にて先生方にAEFA活動紹介(佐川、金子)	10月30日～11月5日	ベトナム出張(金子)
		11月14日～19日	ラオス出張(谷川)
9月27日	公文国際学園中等部インタレストスタディーにて出前授業	11月26日～12月1日	ベトナム出張(亀井・坪井)



afterword

理事長 亀井善太郎

2023 年からスタートした「AEFA マンスリーサポーター」は、名前のとおり、毎月の少額の寄付を続けていただくサポーター向けの制度です。

お預かりした資金は、学校建設以外の、読書を習慣づけるプログラムや子どものリーダーシップ育成プログラムなどに活用していきます。つまり、教育の「質」を高めるための投資です。今回の会報で紹介した奨学金も、そのうちのひとつです。

今後、モム君のように自分自身の未来を切り拓くことのできる子どもたちをもっと増やしていくため、なにより、長期間にわたって安定的に子どもたちに寄り添っていくため、マンスリーサポーターに参加して下さる方々を増やしていきたいと思っています。

マンスリーサポーターによる資金は、変化の激しい現地のニーズに応じた、新たなチャレンジにも充たせていきたいと考えています。いわば、

現地の NGO と AEFA にとっての研究開発資金です。すでに日本の皆さまから多くのご寄付をいただけるようになっている図書教育プログラムや STEM プログラムも、こうしたチャレンジを経て、現在の形まで育て上げることができたものなのです。

山岳地域の子どもたちが直面する課題はまだまだ深刻です。もっと子どもたちのためになる、もっと明るい未来につながる新たなチャレンジに、一緒に取り組んでみませんか。

マンスリーサポーターへのご協力、また、お友達やお知り合いへのお声掛けもどうぞ宜しくお願いいたします。

AEFA マンスリーサポーター

募集中

AEFAの活動を継続的に支援して下さる「マンスリーサポーター」を募集しています。サポーターの皆様からのご寄付は、アジア山岳少数民族の子どもの可能性をひらく教育支援プログラムのために活用させていただきます。

金額(毎月)

月額1,000円(1口)から5,000円(5口)まで選択できます。また、児童・学生の方々も参加しやすいように月額500円のプログラムも設定しました。

登録方法

寄付プラットフォームとして実績ある「Syncable」を使用しています。クレジットカード決済が可能です。

1. 右下のQRコードを読み取り、SyncableのAEFAページにアクセスしてください。
2. 「支援方法」より、「寄付する」を選択してください。
3. 「頻度」の欄で「毎月」を選び、「金額」の欄で月額を選択してください。
4. クレジット決済に必要な情報を入力してください。
5. 登録いただいたメールアドレスにSyncableからのメールが届きましたら受付の完了です。



<https://syncable.biz/>

Q 「アジア教育友好協会」で検索



個人と非営利団体を繋ぐプラットフォームサービス
Syncable (シンカブル) に登録しました



<https://syncable.biz/>

Q 「アジア教育友好協会」で検索

当サイト経由で AEFA 会費のカード決済ができます

AEFA Web & SNS

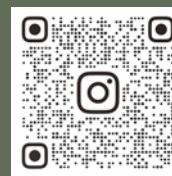
Web Site



Facebook



Instagram



私たちは各国のパートナーNGOと
手を携えて活動しています。

ベトナム：Research & Communication Centre for Sustainable Development (CSD)
ラオス：Association for Community Development (ACD)
タイ：Raks Thai Foundation (CARE Thailand)
スリランカ：Rotary Club of Colombo (RCC)



AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association

フレンド会報36号

〒102-0074
東京都千代田区九段南2-3-22
アーバンセカンドビル3F
TEL:03-6265-6490
FAX:03-6265-6491



2023年12月6日 発行

AEFAの3層構想理念



AEFA 支援による初の「校長先生」誕生
現地で、いま起きていること
少数民族の生徒になってみたーAEFA フォーラムより



写真：左上）モム君 左中）パチュドン中学時代のモム君（左から4人目）と仲間たち 左下）モム校長先生と学校の生徒たち 右）モム君の教室

AEFA 支援による初の「校長先生」誕生

子どもたちの未来・若者たちの進む道を、奨学金で支える

毎夏、ラオスの奨学生たちから便りが届きます。AEFAの就学支援により、大学や職業訓練校に進学した若者たちからの便りです。

ラオスの学校は夏に年度末を迎えます。努力の結果、学業を修了できた子、あまり成績はよくないけれど諦めず勉強を続けている子、家庭の事情や病気で志半ばに退学した子…人生は様々です。

今年の夏は嬉しい報告がありました。AEFAの支援校、パチュドン校出身のモム君が、2023年9月から故郷の村の小学校の校長先生になるということです。AEFA奨学生から初の校長先生が誕生しました。

希望のバトンをつなぐ

サラワン県タオイ郡の山岳地帯にあるパチュドン校は、AEFAのラオスプロジェクト第一校です。小学校を建設したら次は中学校、そして高校と、学びの道が途切れないように継続して学校建設をサポートし、子どもたちの進路を切り拓いてきました。

しかし村の学校を卒業した後、更に学びを続けたい・知識や

技術を習得して職を得たいと考える若者たちの道は容易ではありません。高等教育機関や職業訓練校に進学できたとしても、これらの施設があるのは故郷の村から遠く離れた県の中心部。そこでの生活はお金がかかることばかりです。たとえば村では食糧も調理のための薪も森の中で調達することができますが、街中ではすべて現金で買うしかありません。まだ仕事を持たない若者にとって、それは大変な負担です。夢を諦めて村に戻る若者も少なくないのです。

AEFAの夢は、少数民族の子どもたちの教育環境を整えるだけでなく、その先の目標をもつ若者が増えていくことです。子どもたちが、大人になったらこんなことをしたい、という夢を抱き、モム君のような村の先輩たちが夢をかなえる姿を見て、より一層勉学に励む。そして、自らの道を切り開く若者に育っていく。そんなふうに将来に向けて希望のバトンをつないでいってほしい。その願いを実現するのが「AEFA奨学金プロジェクト」です。

山岳地帯に「わが村出身の先生」を

ラオスでAEFA奨学金が始まったのは2010年。きっかけは短

期教員養成制度でした。

当時、山岳地帯における教員不足解消のために、中学卒業後教員養成校で3年間学ぶと小学校の先生の資格をとれる制度がありました。国の公用語(ラオス語)とは異なる民族固有の言語をもつ少数民族の子どもたちが言葉の壁によって授業から脱落してしまうことに胸を痛めていた私たちは、子どもたちと同じ言語、同じ文化を共有できる「わが村出身の先生」の重要性を強く感じていました。

そこに現地NGOから短期教員養成のための奨学金について相談があったことで、よし、すぐやろう!と奨学金の支給が始まったのでした。

ラオスにおけるAEFA奨学金は、村の学校を卒業し更なる学びへと進む若者の生活や学習をサポートするための支援金です。村を離れて寮生活を開始する際の生活必需品や教材の購入費、病気になったときの病院診療料、帰省するときのバス代など、現金がどうしても必要な時に支援するものです。村の若者たちが共同生活ができるように寮や調理場を建設することもあります。

また、ラオスでは正規の教員となるためにまず「ボランティア先

生」として無給で勤務し、実績を積み重ねることが求められます。無給の苦しい生活を助けることで、少数民族出身のボランティア先生が正規教員となる夢を支えてきました。

前述のパチュドン校では2011年に奨学金の支給が始まりました。AEFAで通称「パチュドンBOYS」と呼ばれている当時の奨学生たちは、AEFA奨学金を受けて南ラオス最大の教員養成校であるサラワン県教員養成校で学び、共同生活を送り助け合いながら卒業しました。小学校の校長先生になったモム君もその一人です。

モム君は2014年に教員資格を取り、暫くの間故郷のタオイ郡でボランティア先生として働きました。その間給与は出ないので生活は厳しかったそうですが、どうしても現金が必要な経費についてはAEFA奨学金が助けとなりました。

2017年に正規教員になり、今年校長先生になったモム君。「奨学金によって私の人生は変わりました。自立することができましたし、家族にひもじい思いをさせることもなく、また、便利で衛生的な生活を送れるようにもなりました。AEFA奨学金は僕の人生と生活を支えてくれました。それを思うと、とても熱い気持ちになります。」と語っています。



写真：左上）新任時代のモム君 左中）プロジェクト打合せ中のヴィサイ君 左下）職業訓練校在学中、ACDの工を手伝うホーン君 右上）自分の村の学校で教えるクム君 右中）教員養成校在学中、谷川と再会したブーク君 右下）AEFAプロジェクトを担当するブーク君

第二、第三のモム君たちをみんなで支えたい

村の若者が先生となって故郷の村に戻る、という目標から始まったラオスのAEFA奨学金ですが、現在は公務員である教員採用枠が少ないことや政府予算の事情もあり、教員資格を取得してもなかなか先生になることができない状況です。

そこで、近年は教員養成校に限らず、職業訓練校に進学する若者も奨学金の対象としています。大工や電気技師、車やバイク修理技術を身につけ、技術を活かして活躍している若者もいます。また、ファイナンシャル、IT、看護師を目指して国内外で学んでいる若者もいます。教員に限定せず、若者の夢の選択肢を増やすこと、そして夢をもった若者がそれを実現することを支援しています。

若者たちの親の中には、学校なんて行かなくていい、村で畑仕事をしてくれればそれでいい、進学なんてもってのほか、という人もいます。時には親の反対を押し切って苦労しながら学ぶ若者たちにとって、AEFA奨学金は「自分は一人じゃない、海の向こうから応援してくれている人がいる」という心の支えになっています。

いま、地元の先輩たちに続き更に学びを続けたいと願う少数

民族の若者たちがいます。自分自身の未来を切り開こうとする彼らに、日本の多くの方々からの応援の気持ちを伝えたい、応援の輪を広げたいと考えています。

AEFAは今年7月に「マンスリーサポーター」募集を開始しました。毎月少額の寄付で参加いただけるプログラムです。このプログラムを通じて現地の若者を応援して下さる方が増えることを願っています。

先日、奨学金を受けて学業を修了し様々な分野で活躍している若者たちの動画メッセージが届きました。彼らの一人ひとりが、自分で将来を選ぶことができた喜びや自立できた喜びに輝いています。自分の子どもたちや甥・姪がきちんと学校に通っていることを報告してくれた若者もいます。

AEFA奨学金によって若者たちの人生が変わり、子どもたちの希望の星が生まれ、村の人々も教育の力を認識するという、村の未来につながる流れができつつあります。

この流れを絶やさず、これからも皆さまと一緒に村の若者たちを応援していきます。

AEFAマンスリーサポーターの詳細は会報P12をご覧ください



写真：上）サラワン県教員養成校 中・下）パチュドンBOYSが共同生活を送っていた寮の様子

見守ってきた「パチュドンBOYS」の成長

小学校建設からの継続的な支援だからこそ実感できる子どもたちの成長があります。2012年にサラワン県教員養成校で開催された大規模なNGOイベントに参加したときのこと忘れられません。教室の片隅から、『パチュドン…』、『パチュドン…』という小さな声が聞こえて、ん？聞き覚えのある学校の名前？と周囲を見渡すと、笑顔で手を振るパチュドンBOYSの姿が！子どもだった彼らが、教員養成校の制服姿の若者となってがんばっている姿が嬉しかったです。少数民族の子どもたちはとても内気で、人前で声を出すのはとても勇気がいることです。パチュドンBOYSも子どもの頃は黙ってニコニコしていただけでした。それが、多くのゲストがいるNGOイベントでたとえ小さな声でも『ぼくたち、ここにいるよ！』と声をあげてくれて、感動しました。今号（会報）の表紙は、そのNGOイベントにおける再会の写真です。

パチュドンBOYSに限らず、少数民族の子どもたちが成長し、自分の道を選びとって歩いていく姿を見るのはとても嬉しいことです。この喜びをより多くの方々と共有できれば…と思います。奨学金を得て活躍する若者たちの動画メッセージもご覧いただけたら嬉しいです。（AEFA理事 金子恵美）

<https://www.nippon-aeфа.org/>

read & watch
more!

今、
若者たちは…



AEFAが就学支援をしてきた若者たちは、教員になる以外にも、職業訓練校に進んで大工になったり、NGOスタッフとして自分が山岳民族支援をする側になっていたり……。

AEFAウェブサイトでは、それぞれの道を力強く歩みはじめた彼らからのメッセージと動画をお届けしています。



モム君

ザネン村出身 教師

2023年9月から校長になります。とても光栄だと思っています。



クム君

トゥルンテン村出身 教師

学業から得た知識と能力を、子どもたちに教えることに活かしています。



ホーン君

ラオ村出身 大工棟梁

自分の家も、少しずつ建設を進めています。



エウ君

ポーバイ村出身 教師目指して勉強中

教育実習では粘り強く取り組み、優秀学生として評価されました。



フォツ君

ラオ村出身 教師目指して勉強中

3か月間の教育実習は興味深い経験でした。



ブーク君

ポーバイ村出身 ACD スタッフ

地元の後輩たちが勇気をもって踏み出せるように応援しています。



ヴィサイ君

ピティアン村出身 ACD スタッフ

ラオス南部ではまだ理解が不足している環境問題に取り組んでいます。

谷川会長、スリランカ出張から 地域の祭祀で学校を歓迎

2023年8月末から9月にかけてAEFA会長の谷川洋がスリランカに出張、コロナ禍の間に竣工した学校を訪問し、竣工確認を行いました。ようやく、地域の人々や子どもたちとともに、学校の完成を祝うことができました。待ち望んだ学校を、地域の祭や子どもたちのダンスで迎える。皆さんが学校を大切に思っている気持ちが伝わってきて、胸が熱くなりました。

なかでも、カワンティサブラ・マハー小中校の式典は荘重なものでした。近隣にある寺院から仏舎利と僧侶を迎え、夜を徹して行われます。仏舎利はとても貴重なものなので、黄色い儀式用の傘を差し掛けられ、頭上に掲げて運ばれました。列席者がまとっている白い服は、お寺へ参拝する際に着用する正装。ココナツの葉で作られたKOK KOLA PAHANと呼ばれるランプに火をともし、祈りを捧げます。イルコーウィタ小中校、ウィーラヘラ小中校でも交流会が開かれ、児童生徒や先生からご支援者のみなさまへ感謝のメッセージが述べられました。

挨拶に立った谷川は「私はスリランカが大好きです。スリランカは、かつて日本を助けてくれました。だから私は一日本人として、皆さんに恩返しをしたいのです」と述べました。

その背景にはこんな歴史があります。第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦勝国である連合軍による分割統治や多額の賠償請求を受ける危機に瀕していました。しかし、戦勝国のひとつスリランカ(当時はセイロン)のジャヤワルダナ蔵相は、1951年9月、サンフランシスコ平和会議において「恨みは恨みで



写真：カワンティサブラ・マハー小中校 僧侶を招いた式典

はなく、愛によって静まる」という「法句教」の一節を引用して、対日賠償請求権の放棄を宣言します。これによって会議の論調が変わり、日本への厳しい制裁措置は見送られました。その後首相や大統領を歴任したジャヤワルダナ氏はたびたび日本を訪問。1996年に亡くなった際には「右目はスリランカ人に、左目は日本人に」と遺言し、左目の角膜は日本人女性に移植されたそうです。

同行したAEFA事業パートナーのダヤシリさんも「私の夢は、スリランカの格差を減らし、みんなが幸せに生活できるようになること。勉強すれば、学ぶ機会さえあれば、等しく可能性と能力をひらくことができます」と、参加者に語りかけました。

スリランカの学校建設プロジェクトも、コロナ禍とその後の経済不況によって大きな打撃を受けています。その中にあっても、AEFAはダヤシリさんはじめ現地との信頼関係を大切に、着実に実績を積み重ねています。



写真：上) イルコーウィタ小中校 下) ウィーラヘラ小中校

現地で、いま起きていること 「子どもの学び」という原点を

AEFAは、「子どもたちの学びのためのプロジェクト」を各地で進めてきました。子どもたちが未来や自分自身の可能性と出会うきっかけをつくるという大きな成果を実感してきた一方、格差の拡大といった大きな渦が現場を巻き込んでいて、新たな困難に直面しています。

あらためて、子どもたちの学びのため、いま、何ができるのか、私たち自身に問いながら、なにより、現地のパートナーNGOや現地の学校と密接にコミュニケーションを重ねながら取り組んでいきたいと考えています。

ベトナムでは、2022年から、政府の反腐敗運動に端を発した政府幹部の辞職以降、行政手続きに遅れが出ていました。特にベトナムにとっての外国からの資金を原資とするプロジェクトには厳しい目が向けられ、許認可関係に時間がかかっています。とはいえ、建設許可が出て動き出したプロジェクトもあり、以前よりも、ご寄付いただく方々のご理解をいただきながら、進捗管理を丁寧に進めています。

ベトナム全体で見れば経済成長は進む一方、私たちの現場である少数民族の教育については行き届かない点も多く、むしろ、直感的には理解しがたい、見えにくい格差が広がっています。山岳部に行けば、十分な教室が整わない学校もあります。また、言葉の課題を乗り越えるために効果の大きいレインボーライブラリーや子どもの心の健康に着目したプログラムなど、現地のそれぞれの課題に応じた丁寧な対応がより必要になってきています。

スリランカでは、経済・エネルギー危機、物価高騰、政治的混乱のために工事に着手できない状況が続いていましたが、2023年初頭から工事を始めることができました。ウィーラヘラ小中学校の理科室・保健室整備プロジェクト、カワンティサブラ・マハー小中校に続き、イルコーウィタ小中学校の課外活動用小校舎も無事竣工しました。
経済危機は今も続いており、教室の整備までは政府の資金



写真：クーヴァン分校（ベトナム）建設中

が回らない状況です。AEFAで計画中のプロジェクトも3校あります。ご関心をお寄せいただければ、詳細についてご説明します。

ラオスでは、引き続き通貨安が止まらず、物価高騰と財政不安が起きています。学校教員は公務員ですが、生活苦から、学校の休業期間中には出稼ぎに行っている人も少なくありません。働き手が外へ出て、村には老人と子どもたちしか残っていません。

新型コロナの感染拡大が落ち着き、子どもたちが学校に戻ってくると期待されていましたが、学校によっては、生徒数がコロナ前の3分の1ほどになっているところもあります。特に高校生男子が多く休んでいます。まずは家族が食べていくため、出稼ぎや労働に出ているためです。

学びの充実を通じて、子どもたちの未来の可能性を広げる取り組みを様々な形で続け、子どもたちの成長を見てきましたが(2～5ページの奨学生のように)、経済の混乱の影響は予想以上に深刻で、無力感を感じることも事実です。

しかし、こうした時だからこそ、あらためて、子どもたち一人ひとりの生涯に大きな影響を与える教育の力を信じて、地道に、取り組みを進めていくしかないとも感じています。たとえ人数は減っても、いま学びを続けている子どもたちに「あの時、教育を受けてよかった」と20年や30年後に振り返ってもらえるような学びの充実、取り組んでいきたいと思います。

写真：左) 図書館で書籍登録中の先生(左)とACDスタッフ(ラオス・ピエンカム小中校) 右) カワンティサブラ・マハー小中校



スリランカの式典には
ココナツやランプが
よく登場します。

式典風景



カワンティサブラ・マハー小中校
ココナツの葉を編んだランタンに火をともし



イルコーウィタ小中校
ココナツミルクを沸騰させる



ウィーラヘラ小中
大きなランプに点火



学校建設プロジェクト

2023年10月現在



① ルンカオ小学校 レインボーライブラリー



② バンコン小学校 レインボーライブラリー



③ ピエンカム小中校 図書館



④ ナンサイター小学校



⑤ カウンティサブラ・マハー小中学校



⑥ クーヴァン分校



⑦ キムソンカシトン分校 図書館



⑧ ドンナム分校



⑨ レインボーライブラリー ヴァンフー小学校



⑩ ランミヒタンナ小中学校



⑪ オスウィンナ小中学校



⑫ ホーリーエンジェルズ女子校

国名	学校名 支援者（敬称略）	ひとこと
完成	ベトナム レインボーライブラリー ニンライ小学校/ルンカオ小学校/バンコン小学校 エルセラーン1%クラブ	小学校にレインボーライブラリーを建設、1年間の読書習慣啓蒙活動を実施します。読書を通して、子どもたちは、視野を広げ、将来の夢を育み、可能性を広げることができます。 写真①②
	ラオス ピエンカム小中校 図書館 エルセラーン1%クラブ	小学校と中学校は同じ敷地内にあり、図書館は小中の児童生徒が使うことができます。小・中両校ともAEFAプロジェクトで建設され、環境プロジェクトも実施、村の皆さんと長いお付き合いのある学校です。 写真③
	スリランカ カワンティサブラ・マハー小中学校 エルセラーン1%クラブ	行政による視察で「倒壊の危険あり」と認定された中学校舎は傷みがひどく、壁が崩れかけ、床がひび割れ、屋根は雨漏りしています。経済危機により着工までに時間がかかりましたが、2023年9月竣工しました。 写真⑤
建設中	タイ イルコーウィタ小中学校 課外活動用小学校舎 (株)やすらぎの部屋 シルバーアーチ基金	2021年にAEFAのプロジェクトで校舎の一棟を改修した学校です。先生の熱意と行動力が実を結び、今回は課外活動用の小学校舎を新設することになりました。子どもたちの将来の選択肢や可能性を広げるため、英語を集中して学んだり、自主的なクラブ活動を行ったりするために使われます。
	ベトナム クーヴァン分校 エルセラーン1%クラブ	タインホア省の山間部の学校です。2階建ての校舎があるものの、5年生は竹で作られた雨風が凄くない校舎で学んでいます。また、トイレは数が足りず、衛生環境は良くない状況です。年内の完成を目指して建設が進んでいます。 写真⑥
	ベトナム カウンセリング室/図書館 キムソンカシトン分校 柏原東高等学校同窓会	柏原東高等学校(カシトン)の名前を学校名に引き継ぎ、新校舎建設に続いてカウンセリング室兼図書施設を建設します。その施設を活用して、子どもたちの心の健康について理解を深める啓蒙活動を実施します。 写真⑦
計画 中	ベトナム チョクチョン分校 匿名希望	ハノイ市から西北に154kmのイエンバイ省にある学校。イエンバイ省は河川、峡谷を挟んだ急こう配の山岳地系を持つ省で山間部には少数民族が居住する地域が散在します。教室数が不足する学校に2教室を新設、トタン造の仮設教員室と老朽化したトイレを建て替えるプロジェクトです。
	ベトナム ドンナム分校 一家恵理	ドンナム区域は山岳部で、点する家々から子供たちが通う、区で唯一の学校です。築20年以上を経た校舎(教員室)は古いものの、丁寧に手入れされています。教室不足のため、教員室も教室として使用しています。不足している2教室新校舎を建設します。 写真⑧
	ベトナム チュンミン半寄宿小中学校 一家恵理	地域の5つの分校から3年生以上の児童が学ぶ拠点校で、教育の質の向上に取り組んでいる意欲的な学校です。通学が困難な生徒たちは寄宿舎に入り、食糧の確保と栄養の充実もはかっています。小学校1-5年生は8クラスあり本来8教室が必要ですが、現在は6教室しかなく、隣接する中学校を間借りしたり、多目的室を教室代わりとしています。不足している2教室を建設します。
計画 中	ベトナム レインボーライブラリー コンダ小学校 株式会社ディアーズ・ブレイン	2022年に2つの分校を統合、小学生だけで360名が学ぶ地域の中心基幹校です。16㎡の小さな保健室に本を置いて図書室代わりとしています。児童生徒が十分に本を読んだり、創造的な読書活動ができる環境がありません。
	ベトナム レインボーライブラリー バンヴェン分校/ヴァンフー小学校 一般社団法人ゼブラ社会支援貢献財団	両校とも、教室数は充足しているものの読書のための設備は整っていません。少数民族児童が多く学ぶ学校で、図書館で本を読んだり読書啓蒙活動は言葉の学習にも大変役立ちます。先生方も読書教育に強い意欲を持っています。 写真⑨
	ラオス ドンニャイ小中高校図書館 山田浩司	2007年度以来、小・中・高校、スポーツコート、集会所、環境プロジェクトと様々なプロジェクトで一緒にしてきた学校です。念願の図書館が整備されます。
計画 中	ラオス ホーコンナイ中学校図書館 エルセラーン1%クラブ	伝統舞踊の郡大会で1等、ラオス語試験では1等、2等をとるなど優秀な成績をおさめるモデル校です。更に学校を魅力的な場にしたいと先生方が努力を続けており、図書館プロジェクトはその大きな一助となります。
	ラオス ノンケー中高校図書館 エルセラーン1%クラブ	2019年にAEFAのプロジェクトでトイレ棟を支援した学校です。高校生男子を中心に生徒数が減っていますが、中でも学びの質を高めようと頑張っています。図書館プロジェクトを実施します。
	スリランカ ランミヒタンナ小中学校	貧困地域にありながら、児童生徒の学習意欲はきわめて高く、修了試験でも良い成績をおさめています。当初、本校舎の改修と整備を計画していましたが、学校としてプロジェクトを進めることとなり、AEFAプロジェクトでは2教室の新校舎を建設します。 写真⑩
計画 中	スリランカ オスウィンナ小中学校	1994年創立時より地域の人口が増え、児童生徒数も増加。教室不足となっています。また、図書室やIT室も不足しており、子どもたちの学びを充実させるべく2教室の追加校舎を切望しています。 写真⑪
	スリランカ ホーリーエンジェルズ女子校	2004年スマトラ沖地震による大津波で全壊した学校の児童生徒を救済するため、村の人々が地元のキリスト教会に懇願して建設されました。敷地スペースが限られる中、現在の校舎を2階建てに拡張し、小学生全員が学べるようにします。 写真⑫

AEFA フォーラム開催

少数民族の生徒になってみた

7月16日(日)、コロナ禍で実施が叶わなかった対面でのAEFAフォーラムを4年ぶりに開催することができました。AEFAスタッフを含め28名が千代田区かがやきプラザに集いました。

今回のフォーラムは、参加者の皆さんに体験していただいた企画がありました。「少数民族の子どもたちと同じ立場に立っていただく」という企画です。二つのグループワーク・プログラムを通じて、参加者の皆様に少数民族の子どもたちが経験していることを体験していただきました。

一つ目のプログラムでは、笑顔、泣き顔、怒り顔など約20種類の顔文字がそれぞれどのような感情を表しているか分類し、今の自分の感情を最もよく表す顔文字はどれか、なぜそのような感情なのか、を話し合いました。

二つ目のプログラムは、参加者が「AEFA小学校1年1組」入学初日の児童となり、ベトナム語での授業を受けました。

これらのプログラムを通じて、現地で実施されている教育プログラムの一部をより深く理解いただくとともに、先生が何を言っているか分からない環境で学校生活を始める少数民族の子どもたちの不安や困惑を実感していただけたと思います。

参加者の皆様からは、
”プログラムの体験ができて良かった！ソフト支援は体験してみないとわからない部分が多い。今後も体験できる場があると



良いと思います。”

“子どもたちの笑顔の背景には、実はいろんな苦労がある。小さい頃から言語問題等で苦労している背景もあるのかもしれないということに気づかされました。”

”学校建築のようなハード支援だけでなく、今回のプログラムのようなソフト支援が大事になると感じました。”

その他多くのコメントをいただきました。

AEFAフォーラムは別名「仲間の集い」です。AEFAにとって支援者、会員、サポーターの皆さま、および現地NGOや少数民族の人々すべてが対等のパートナーであり仲間です。同じ立場・同じ目線で現地の課題を考えるうえで、知識としてわかっているだけでなく我がこととして実感することが“仲間”として大きな意味を持つと考えています。今回のAEFAフォーラムはそれを体験いただく良い機会となりました。今後もさまざまな形で仲間の力を高めていきたいと考えています。



乾季になると、村では一斉に屋根の葺き替えが。森から採ってきた長い大きな葉をひたすら編んで乾かす。



屋根を編む

育てコーヒー豆



標高の高いポロヴェン高原はコーヒーの産地。11月の収穫まで、もう一息。



視覚（景観）

町の変化でまず目を引くのが、高層ビル群の激増です。景観がすっかり変わってしまい、ホーチミンの地理にはちょっと自信のあった私も今やすっかりお上りさんで、一步郊外に出るといった自分がどこにいるのやらさっぱりわからない状況になってしまいました。新設道路やトンネルも増えており、現在試行運転中のメトロ1号線(日本のODAが中心となり建設)が2024年に運行開始すれば、交通の面でも景観がさらに変わっていきそうです。

変わらないのは足元。たいていのひとは10m以上離れた場所にはバイクで移動するので、歩道は「歩くための道」ではないのです。凸凹あり、駐輪場あり、屋台あり、犬などの落とし物あり、油断禁物、デンジャラスな世界です。公共交通機関が普及したら歩道を歩く人も増え、少し変わるといいな、と私はひそかに願っています。

聴覚（バイクの音、カラオケの音、雨の音…）

こちらに来て数日で、小学4年生の娘が「もっ、疲れる！」と音を上げたのが、「音」でした。外に出るととにかくうるさい！無数に行き交うバイクの音、調子はずれのカラオケの音、そして、スコールの雨の音さえも、とにかくボリュームが大きくて、派手！でも、そのぶん多少の騒音は誰も気にしないので、子連れには非常に気が楽でありがたい、という側面もあります。

新連載！

坪井未来子の

ベトナム遠景・近景①

この夏、ベトナムはホーチミン市に住まいを移しました。ベトナムとかわるようになって30年ですが、6年間も訪れなかったのははじめて。目下、五感をフルに使って久しぶりのベトナムを楽しみながら、わが身をチューンアップしています。本号より、生活者としてホーチミンから見える風景をお伝えしていきます。(つばい・みきこ／ベトナム語通訳・翻訳者、AEFA理事)

触覚？（子どもにやさしい。スキンシップ多め）

ついでに言うと、誰もが子どもに大変温かいのです。これは「触覚」になるのでしょうか…？ マンションのセキュリティのおじさんは通るたびに息子の耳をつまんでニコニコ。お掃除のおばちゃんはお出逢えば、即むぎゅーと熱い抱擁をしてくるので、我が7歳少年は毎回赤面しながらも嬉しそうにしています。日本では有り得ないので初めは驚いていましたが、今では会えるのを楽しみにしている風です。

臭覚（常に多種多様なにおいに包囲される）

こちらに来てすぐ山形から遊びに来た友人が「最近テレビでよく見るけど、このにおいや空気感は来てみないと全然わからなかった」と言っていたのが印象的でした。そうなんです。日本はわりと無臭を目指しますが、ベトナムは目指していないようです！

大都会のホーチミンでは、市場のにおい、お線香のにおい、道端で売の花のにおい、ショッピングモールのにおい、汗のにおい、朝のにおい、昼のにおい、スクール後のにおい…ひとによって感じ方はそれぞれだと思いますが、とにかく多種多様なにおいが常に立ちこめています。においの振れ幅がかなり大きいので、初心者(我が家の子どもたち)ははじめずいぶん戸惑っていました。が、臭覚って面白いですね。数週間で慣れてしまったようです。

そんなこんなで刺激の尽きない毎日ですが、今回はこの辺で！

Photo & Story ラオス南部の風景から

灌漑設備が整っていれば、5月と12月が田植えのシーズン。村人の農作業の様子を並んで見物中のラオスわんこたち。

ラオスわんこ



足を運ぶ



雨季にはあっという間に道路が川になってしまうことも。そうなるとう、普段は頼れる足のバイクもお手上げ。